

行政視察報告書

委員会名（会派名）	新風つばめ（Bグループ）、公明党	報告者	岡山、稲村、齋藤、近藤
視察日程	令和5年3月29日～3月31日		
調査事項 及び 視察地	① こども家庭庁について 東京都千代田区 ② 自動認識技術について 東京都港区 ③ 郷土愛プロジェクトについて 長野県伊那市 ④ 尖石縄文考古館について 長野県茅野市		
参加議員（委員）	中山真二、田澤信行、岡山秀義、稲村隆行、齋藤和也（新風つばめ） 渡邊雄三、近藤隆行（公明党）		
①	【調査目的・内容】 ・2023年4月に新設されるこども家庭庁での取り組みについて ・現状での課題や今後の展望について		
	【所感】 2021年9月に子供の視点に立ち、子供を巡る様々な課題に適切に対応するためのこども政策の方向性について検討する「こども政策の推進に係る有識者会議」を開催し、同年12月に「こども政策の新たな推進体制に関する基本方針」が閣議決定され、内閣官房に「こども家庭庁設置法案等準備室」を設置されたことからこども家庭庁設立への準備が始まった。 2023年4月に新設されるこども家庭庁は常にこどもの視点に立ち、こどもの権利利益の擁護を任務としており、情報発信や広報をはじめとした企画立案・総合調整部門、妊娠出産支援からこどもの安全や居場所を行う成育部門、児童虐待防止やこどもの貧困対策、ひとり親家庭、障害児支援を行う支援部門の3部門体制としている。総理直属の機関として、内閣府の外局として一元的に企画・立案・総合調整する。立ち位置は他省庁の上に立ち、横断的に調整を行う。 現在はこども政策DX推進チームを設立し、こどもや子育て家庭が必要な情報に素早く、簡単にアクセスできるようにこどもまんなか社会の実現を図っていく見込みである。一方で長官など人事が決まったばかりで確定事項が少なく、見込み事項が多く、課題が見えないことが課題である。運営していく中で課題を認識し、対策を講じていく。 伴奏型相談支援など燕市で取り入れる事業、それに付随する用語が多数あり、国の方針に則った事業を市政に行っていることが伺えた。燕市も2023年4月に新設されるこども政策部についてもこども家庭庁への動向を注視し、こども政策部の立ち位置や事業に反映すべきではないかと考える。		
②	【調査目的・内容】 ・自動認識新技術について ・自動認識新技術の産業活用について		
	【所感】 熱転写方式バーコードプリンタを世界で初めて開発し、現在は自動認識ソリューション商品のシェア、技術が高い会社で、今回の視察では、自動認識技術の最新情報と、その産業への活用について学んだ。 日常的に馴染みのあるものとして、バーコード、二次元コード（QRコード）、ポイントカードなどの磁気ストライプがあるが、特に大手小売店等で活躍している「RFID」技術は、製造業、物流業でも大いに活用できると考えられる。「RFID」技術は、非接触で一括読み取りや、探索ができる技術で、		

小売店では、商品タグに内蔵され、レジにおいて自動で合計金額が表示されたり、棚卸しでも使える。製造業、物流業でも部品の管理、棚卸しが素早くでき、大きく作業の時間が短縮できる。また、医療の分野でも同様の活用がなされている。

新しい技術としては、「デジタルマーク」といった、トレーサビリティや、ブランドの真贋判定の技術があり、今後は更に進んで「Wiliot IoT ピクセル」といった最新技術がある。これはタグのように薄いですが、タグ自体が環境発電、情報が発信でき、商品一つ一つの状態を確認できる機能となっている。この新技術は、リアルタイムの在庫管理、販売機会ロスの低減、従業員の業務効率化、マーケティングなどに活用でき、様々な効率化と、問題解決につながる技術となる。

最新技術の一般的な活用にはまだ時間がかかるが、一般的になりつつある「RFID」技術は、導入コストも下がってきており、製造業の多い燕市においても、活用により作業効率の大幅な増が考えられる。人材不足が深刻さを増す現状において、人材確保に力を入れるのは必要だが、技術の活用により、作業効率の改善で人手不足を解消することも同時に大切であると感じられた視察であった。

【調査目的・内容】

若者の人材流出を解決するためのアプローチとして、上伊那広域連合が実施している郷土愛プロジェクトについて調査し、燕市政に活かす。

【所感】

●発足の背景

郷土愛プロジェクトは、地元産業界が若者の人材流出により、将来の地域産業や暮らしに対して危機感を抱き、その解決に向けて2010年頃に発足。

●郷土愛プロジェクトの組織について

全8市町村からなる上伊那地域の商工会、行政、学校関係者等のメンバーで構成された約50名の組織。

●目的

幼少期から社会人にいたるまで、つながりのあるキャリア教育を実践していくことで、地元の自然・文化・歴史・産業を学び、ふるさとを愛し、ふるさとへの思いを持ち続ける子どもの育成に努める。

●主な取り組み内容

「キャリアフェス」

・小学生対象

小学生が地域の企業、歴史、文化を調査。調査結果を地域住民と精査し発表する。

・中学生対象

企業が仕事、暮らしの観点でブースを出展し、1日ばかりで地域に住む人の職業観、人生観、郷土愛を学ぶ。

・高校生対象

地元企業がブースを出展。企業紹介や地元で働くことについて高校生と対話。実際に就職に結びつくケースもある。

「キャリア教育かみいな交流会」

子どもやふるさとの未来について意見交換する交流会。高、大学生、保護者、産学官から200~300名が参加。

●成果

発足から10年間、地元新聞やケーブルテレビに毎年取り上げられていることで、市民に広く認知された事業となっている。この事業に参加した学生が、実際に地元で就職したかどうかというところまでは、追跡することが困難であるため、成果を明確な数字で把握することはできていない。しかし、企業、保護者、学生から好評を得ており、郷土愛プロジェクトに関わる人の数は拡充し、地域活性化にも、つながっている。

●所感

毎年発行されるリーフレットやチラシの内容が保護者、学生の興味を引くように工夫されており、実施されている数々の事業についても、単発で終わるのではなく、関連性をもたせて、継続的に学生と

関わり、地域に関心をもってもらえるように考えられたものとなっている。若者の人材流出は燕市でも深刻な課題であり、参考にできる部分が多く、燕市にも活かせる内容であるとする。

【調査目的・内容】

新分水良寛史料館移設に係る調査について

【所感】

- ④ 令和5年度予算において、現分水良寛史料館の老朽化への対応や文化財等の所蔵スペースの確保に加え、減少傾向にある入館者数増加を図るため、施設の機能拡充や移転改築を含めた、施設の新たな在り方の検討を開始する。そこで、他自治体での取り組みを取り入れるため、尖石縄文考古館にて調査を行った。
- 縄文遺跡の宝庫と言われる八ヶ岳の麓、長野県茅野市にある縄文遺跡と博物館。5体しかない国宝の土偶2体「縄文のビーナス」「仮面の女神」が展示されている。展示に関して来場者が鑑賞しやすい「四方から鑑賞できるような工夫」がなされている。一方よりも一度で大勢の方が鑑賞できるように工夫されていた。スペースの問題があるが当市でも取り入れたい要素である。

【視察の様子】

① こども家庭庁について 東京都千代田区



② 自動認識技術について 東京都港区



③ 郷土愛プロジェクトについて 長野県伊那市



④ 尖石縄文考古館について 長野県茅野市

